

発言通告表（一般質問）

令和2年2月定例会

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（14）	<p>1. 富士市のエンディングノートに対する取組について</p> <p>高齢化の進行に伴い、社会保障費が膨張していき、今後、財政を圧迫することについては、以前より何度となく警鐘を鳴らせていただけてきました。厚生労働省が昨年11月に発表した「介護給付費等実態統計」によると、介護保険給付や自己負担を含む介護費用が2018年度に初めて10兆円を超え、ヘルパーの自宅訪問や通所でのリハビリといった介護サービスを利用した人も前年度比1.6%増の517万9200人で過去最高でした。これから毎年過去最高が更新されると推測され、国では、高齢化の進行で社会保障費が膨張している実態が浮き彫りになったことにより早急に対策が検討されています。</p> <p>団塊の世代全員が2025年には75歳以上の後期高齢者になるため、増大し続ける費用をどう抑制するかが課題と言われてから、数年が経過していますが、市として、実感できる対策がいまだ見えてこない中、国では、既に2040年を展望した社会保障・働き方改革に取り組んでいると聞いています。</p> <p>静岡県の現状は、昨年4月1日時点で高齢化の進行による特別養護老人ホームの待機者数は6086人で、市町別の待機者数は一番多いのが静岡市で925人、次いで浜松市の900人、そして富士市が482人で3位でした。</p> <p>県の介護保険課は、増加が見込まれる高齢者のニーズに対応するため、施設整備を引き続き進めるとしてはいますが、これは介護施設を増やすということで、今後も社会保障費が増大することを意味しています。しかし、介護の現場では介護士不足や職員給与の高騰などにより、施設運営が成り立たない施設も出てきています。受け入れ施設を増やしても全ての要介護者の受け入れはできないということになります。</p> <p>その現状に備えるためにも、在宅での介護、医療の充実を急いでほしいと以前、一般質問で要望させていただいています。ほとんどの方が、2025年問題については認識をされていると思いますが、現場から見るとその影響は、予想以上に早く確実に訪れると思っています。</p> <p>私が何度となく高齢者の問題を取り上げさせていただいているのは言うまでもなく、私たちの子供や孫に大きな負担を負わせないという気持ちからです。これまでも増加する高齢者に対する行政の受け入れ態勢について、当局の名称の変更や配置体制の見直しを御提案させていただいておりますが、高齢者にわかりやすくするだけではなく、介護する家族のためにも、わかりやすい行政サービスを一日でも早く確実に進めていただくことを改めて強く要望しておきます。</p> <p>そこで、今回問題として取り上げさせていただくのは、これから高齢者と呼ばれる方々の意識も今からしっかりと変え</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（14）	<p>ていかなくはないということですが、</p> <p>現在、市としても介護予防施策に取り組んでいただいておりますが、将来を考えてどれだけの市民が予防に取り組んでいるのでしょうか。要介護者にならないためにどれだけの人が真剣に考えてくれているのでしょうか。老後は元気に社会貢献しようとか、80歳までしっかり働くぞという思いでいてくれるのでしょうか。そこで高齢者の就労支援も含め、その環境づくりも行政として急がれるところではあります。</p> <p>しかし、現実はいかにしてか、高齢者と呼ばれるようになってから病院通いが日課となり、それが当たり前だと思っている方がまだまだ多いのではないのでしょうか。中には、幾つもの病院を掛け持ちして、飲まない薬の量を自慢する方や、薬局などで直接買うと高いので、処方箋を出してもらおうと安いからと言って、自分の分だけならまだしも知り合いの分まで処方してもらおう方もいるようです。これでは、いくら税収が上がったとしても、後期高齢者医療費を湯水のように使えるという意識を変えなければ、無駄な社会保障ということになり、私たちの子供や孫たちに負の財産を残すことになってしまいます。医療費は本当に必要とされている方、社会的な保障を必要とされている方に使われるべきだと思います。</p> <p>現在、50歳代、60歳代の高齢者予備軍の方に少しでもいいから、自分の健康管理をすることや介護予防をすることが将来の社会保障費の削減につながるという環境づくり、意識改革を市民全員で共有できるようにしたいものです。</p> <p>そこで、今回その中のツールの一つとして「エンディングノート」を取り上げさせていただきました。このエンディングノートについて、私は平成29年6月定例会の一般質問でも取り上げさせていただきましたが、改めてその必要性について当局の御見解をお聞きしたいと思います。</p> <p>ここでエンディングノートがもたらすものとして、少し御紹介したいと思います。まず、その人らしく生き、大切な人へ思いを残すという大きな目的があります。意思を伝えられなくなったときや亡くなったときのために、これまでの自分を振り返り、この先の願いを書き示すのがエンディングノートで、人生の履歴書、最後の自分の企画書とも言われています。</p> <p>最近ではテレビなどでも人生の終わりのための活動「終活」という言葉も認知されるようになってきました。これからの福祉サービスを考える上で、自分を知っていただくこと、老後の人生計画を立てることは、大変重要になってくるのではないのでしょうか。</p> <p>そのために、エンディングノートを書くことで、自分の生活を見直す、無駄な医療費を見直す、大切に生きていこうと意識する、自分のことは自分で決める、書き終えれば安心する、大切な人に希望を伝えるなどの効果があると考えられ、</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（14）	<p>自己管理ができることで、無駄な病院通いも少なくなるので、医療費、介護サービス給付費の抑制につながるのではないのでしょうか。</p> <p>記入する際、大切なことは、自分一人で書くのではなく家族の誰かが必ずそばにいて、自分の人生を共有してもらいながら書くことに大きな意味があると思います。</p> <p>そこで、改めて富士市として、このエンディングノートについて、どのような認識でいるのか、以下お聞きいたします。</p> <p>10年後の富士市の福祉政策を考える視点として、</p> <p>(1) 高齢者医療費、介護サービス給付費の推移をどのように見ているか。</p> <p>(2) 富士市として、エンディングノートの作成は考えているか。</p>	市長 及び 担当部長